北海道奥尻高等学校　令和７年度

シラバス

3

氏名：

科目名	論理国語	３学年・必修	使用教科書	第一学習社『高等学校　標準　論理国語』
		単位数：２単位	使用副教材	第一学習社「標準論理国語　学習課題ノート」 桐原書店『新版完全征服頻出現代文重要語７００三訂版』

学習目標	この教科では、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指します。 ① 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ② 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ③ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
学習方法	●授業ではプリントを使用します。各自で綴じ込むファイルを用意して下さい。●授業で取り扱う「課題」には、個人でもグループでも、積極的に参加し、最後まできっちりやり抜いて下さい。●週に１回、授業の初めに小テストを行います。●単元の終了時には、漢字や語句を確認するテストを行います。●各者査では30点未満の人を対象に、「追加課題」を課すことがあります。●教科書とプリントは毎回必ず持参して下さい。忘れ物をしてしまったときは、必ず朝のうちに職員室に来て申し出て下さい。授業開始時に申し出ても対応できません。●授業中の私語は周囲に迷惑をかける行為です、慎んで下さい。●学習の様子を見て、任意参加の補習授業を実施することがあります。もし、事前に希望がある場合には遠慮せずに申し出て下さい。●授業についていけず不安になった時は、遠慮せずに話して下さい。手立てを一緒に考えましょう。●授業に関する質問はいつでも受け付けていますので、遠慮せずに聞いて下さい。

学習評価	評価の観点		評価の観点の説明
	Ⅰ	知識・技能	・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。
	Ⅱ	思考・判断・表現	・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	Ⅲ	主体的に学びに向かう態度の評価	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う.

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
	新しい視点 池内了 新しい博物学を	理科研究	筆者の考える「新しい博物学」と同様に、国語分野と理科分野が関連する事柄を調べ、発表する。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4	「新しい博物学」の意義とそれが求められる理由を考えよう（池内了「新しい博物学を」）	4	・各段落の役割や関係を把握し、筆者の提案する「新しい博物学」の意義と可能性を考察する。	次の観点で評価します。 ・各段落の役割や関係を把握し、筆者の提案する「新しい博物学」の意義と可能性を考察できているか。 ・語句の量を増やし、語意を豊かにできているか。 ・積極的に比喩の効果を理解し、本文においてどのような効果を生んでいるかを説明しようとしているか。	探究心
	5	社会問題を分析的に説明する論展開を的確に捉えよう（岡本真一郎「SNSと意見の分極化」）	7	・フェイクニュースの社会的問題を分析的に説明する論展開を把握し、自分に照らして考えを深める。	次の観点で評価します。 ・文章の構成や展開のしかたについて理解を深めているか。 ・フェイクニュースの社会的問題を分析的に説明する論展開を把握し、自分に照らして考えを深めているか。 ・誤情報への対策・対処について、自身の問題として考えているか。	当事者意識
	6	筆者の主張を理解した上で、その問題に対する自分の考えをまとめよう（千松信也「クマを変えてしまう人間」）	8	・猟師である筆者の体験をもとに語られる、人間の活動と自然との関係について理解を深める。	次の観点から評価します。 ・情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理できているか。 ・猟師である筆者の体験を元に語られる、人間の活動と自然との関係について理解を深めているか。 ・本文を踏まえて人間と野生動物の関係のあり方について考えを深め、人間ができることについて積極的に話し合おうとしているか。	課題解決能力
	7	小論文作成時に求められる批判的な読み方について学ぼう（小論文を書く「課題の文章を読んで情報を整理する」）	4	・課題型小論文への対応のしかたを理解する。 ・課題文の論旨と主題を読み取る方法を理解する。 ・課題文を要約する方法を理解する。	次の観点で評価します。 ・課題文型小論文への対応のしかたを理解しているか。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続のしかたについて理解を深めているか。 ・課題文の論展開と筆者の主張を粘り強く読み取ろうとしているか。	言語力
	8	推論とその種類について知り、理解を深めよう（仲島ひとみ「推論とは何か」）	3	・推論のしかたについて理解し、活用する方法を学ぶ。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する方法を学ぶ。	次の観点で評価します。 ・推論の仕方について理解し、活用する方法を学んでいるか。 ・文章を分析し、さまざまな観点から概要をまとめる方法を学んでいるか。 ・推論の種類の違いを把握し、それぞれの事例について積極的に考え、その妥当性を検討しようとしているか。	言語力
	9	段落毎の内容や関係を捉え、論理的文章の構成の方を知ろう（森本哲郎「経験の教えについて」）	8	・論理的文章の構成の型を知り、「経験の教え」について自分に引き付けて考えを深める。	次の観点で評価します。 ・文章の構成や展開のしかたについて理解を深めているか。 ・論理的文章の構成の型を知り、「経験の教え」について自分に引きつけて考えを深めているか。 ・『イソップ物語』について積極的に調べ、最も印象に残った話とその理由を発表しようとしているか。	情報活用能力
後期	10	科学技術と文化の関係について理解を深めよう（佐倉統「科学技術は暴走しているのか」）	8	・AIやロボット技術の現状や日本における捉え方を踏まえ、科学技術との向き合い方を考える。	次の観点で評価します。 ・文章の構成や展開のしかたについて理解を深めているか。 ・ＡＩやロボット技術の現状や日本における捉え方をふまえ、科学技術との向き合い方を考えているか。 ・本文を読んで、科学技術に対する考えに変化があったかどうかを進んで振り返り、変化を比較しながら文章にまとめようとしているか。	情報活用能力
	11	具体例や言い換えに留意しながら内容を捉えよう（苫野一徳「哲学的思考とは何か」）	8	・具体例や言い換えに留意しながら内容を正確に把握し、「哲学的思考」の方法を理解する。	次の観点で評価します。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにできているか。 ・具体例や言い換えに留意しながら内容を正確に把握し、「哲学的思考」の方法を理解できているか。 ・自分の考えと本文の内容とを照合し、粘り強く検証しようとしているか。	言語力
	12	メディアに対する筆者の主張を捉えよう（森達也「ポクらの時代のメディア・リテラシー」）	7	・筆者の主張の要点を理解し、市場原理の主体とメディアの関係について考えを深める。	次の観点で評価します。 ・文章の構成や展開の仕方について理解を深めているか。 ・筆者の主張の要点を理解し、市場原理の主体とメディアとの関係について考えを深めているか。 ・本文を粘り強く読み、個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしているか。	当事者意識
	1	根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する方法を学ぼう（大倉茂「カブトムシから考える里山と物質循環」）	4	・人間と自然との関わりの変化を、自然の社会化という視点から考察した筆者の論理を読み解く。	次の観点で評価します。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしているか。 ・人間と自然との関わりの変化を、自然の社会化という視点から考察した筆者の論理を読み解いているか。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、分掌の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する方法を身につけているか。	課題解決能力
通年	4～1	新版完全征服 頻出現代文重要語７００ 三訂版	週1	毎週１回、１２ページ程度を範囲として授業の最初で小テストを行う。 一般常識の言葉や慣用句、熟語の意味、漢字の読み書きを覚え、語彙力を身につける。	・小テストの結果は、知識理解の評価に組み込んでいきます。 ・語彙力を高めるために、隙間時間を見つけて副教材を読んで覚えよう。	言語力

科目名	古典探究	３学年・選択	使用教科書	大修館書店　『精選　古典探究』
		単位数：４単位	使用副教材	桐原書店「基礎から解釈へ　新しい古典文法　四訂新版」・桐原書店「基礎から解釈へ　漢文必携　五訂版」 桐原書店「読んで見て聞いて覚える　重要古文単語３１５」

学習目標	・国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
学習方法	●授業ではプリントを使用します。各自でまとめるファイルを用意してください。●週に２回、授業の最初に小テストを行います。範囲を確認し、予習をしてください。●教科書とファイルは毎回必ず持参して下さい。忘れ物をしてしまったときは、必ず朝のうちに職員室に来て申し出て下さい。授業直前で申し出られても対応はできません。●授業では自分たちで文法事項の説明、現代語訳、書き下し文を作成し発表してもらいます。辞書やタブレットを忘れずに持参してください。●現代語訳をインターネットで見つけ書き写すだけでは力はつきません。間違ってもいいので自分で現代語訳を作りましょう。●授業中の私語は周囲に迷惑をかける行為です、慎んで下さい。●学習の様子を見て、任意参加の補習授業を実施することがあります。もし、事前に希望がある場合には遠慮せずに申し出て下さい。●授業についていけず不安になった時は、遠慮せずに話して下さい。手立てを一緒に考えましょう。●授業に関する質問はいつでも受け付けていますので、遠慮せずに聞いて下さい。

学習評価	評価の観点		評価の観点の説明
	Ⅰ	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
	Ⅱ	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする.
	Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
	漢文編　故事・逸話 塞翁馬	世界史探究	故事成語「塞翁が馬」が成立したのは古代中国である。その時の中華世界と北方遊牧民族の関係について調べ、この話の背景を考察する。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushirlety 5.0
前期	4	古文編　説話 「十訓抄」大江山いくのの道	8	・話の舞台や背景に注目し、登場人物の行動に注意して読み、話の展開を把握する。 ・和歌の文化的背景とそれに携わる人物関係をふまえ、「大江山…」の和歌を軸に、人物の行動や心情を読み取る。 ・古文単語の調べ方、古典文法や和歌に関する基礎知識を身につける。	・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。 ・説話文学に興味をもち、登場人物の言動などから多様な価値観を読み取ろうとしている。	言語力
	5	漢文編　故事・逸話 塞翁馬	14	・漢文訓読に習熟する。 ・故事成語の意味の成り立ちを理解し、現在の用法に慣れる。	・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 ・作品に興味をもち、読書なども積極的に行おうとしている。	言語力
	6	古文編　日記 『蜻蛉日記』 町の小路の女	16	・日記における和歌を用いた表現の特色について理解する。 ・作者の境遇についての認識を深め、心情を読み取る。 ・文章の展開に即して、作者の心情を読み取る。	・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・日記に興味をもち、『蜻蛉日記』の特色について理解を深めようとしている。	他者理解
	7	漢文編　漢詩一近体詩 竹里館(王維)勧酒（于武陵） 哭晁卿衡（李白）	8	・近体詩の名作を繰り返し朗読し、漢文独特の口調に習熟する。 ・近体詩の形式や表現、技法について理解を深める。 ・詩人たちの人生観や自然観についての認識を深める。	・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。 ・作品に興味をもち、そのほかの別離詩や日本の紀行文などに見られる別離の場面などについても、積極的に調べようとしている。	感受性
	8	古文編　和歌・歌謡・歌論 古今和歌集	6	・和歌の発想や表現、韻律、修辞法など、独自の表現方法を理解する。 ・『古今和歌集』の歌風の特徴をつかむ。	・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を心まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「真名序」や漢詩と比較し、「仮名序」における和歌がどのようなものかを理解しようとしている。	感受性
	9	漢文編　史伝一『史記』列伝 廉頗・藺相如 刎頸の交わり	16	・『史記』の文章表現の妙味や、そこに用いられている故事成語などを理解し、言語感覚を豊かにする。 ・登場人物の描かれ方を考察し、巧みに描き分けられているそれぞれの人柄を的確に把握し、その心情や性格について理解を深める ・伝記の読解を通じて、そこに示されている人間観や歴史観を知り、人生や運命について考える。	・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・作品の成立した背景やほかの作品などとの関係をふまえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・『史記』について興味を持ち、登場人物の行動や心情について考えようとしている。	言語力
後期	10	古文編　物語(二) 『源氏物語』 光源氏の誕生	16	・登場人物の人間関係を正確につかみ、それぞれの心理の動きをたどる。 ・物語中の人物描写などを味わい、作品をとりまく時代の背景、文化的環境についての理解を深める。	・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。 ・平安時代の貴族文化をふまえて、登場人物の境遇や心情を理解しようとしている。	言語力
	11	漢文編 小説 干宝「定伯売鬼」	16	・想像力を養い、豊かな情操を培う。 ・小説文の訓読を通じて、我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養する。	・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。 ・中国における小説に興味をもち、日本の言語文化に与えた影響について理解しようとしている。	他者理解
	12	漢文編　故事・逸話 「死せる諸葛生ける仲達を走らす」	12	・戦場での知謀の駆け引きを通して、人間の生き方について深く考察する。 ・「三国志」から生まれた成句や故事成語を理解し、言語感覚を豊かにする。	・これまでに学んだ訓読のルールや句法を確認しながら読解している。 ・復習の登場人物が登場する物語であるため、人間関係や発話者を確認し、展開を的確に把握している。	言語力
	1	古文編　随筆（二） 『枕草子』 中納言参りたまひて	8	・作者のものの見方や感じ方また教養などについて理解する。 ・各章段の内容を、執筆と流布の経緯に結び付けて理解する。	・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係をふまえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・宮廷生活の中で語られる作者の感性と機知を理解しようとしている。	感受性
通年	4～1	・読んで見て聞いて覚える重要古文単語３１５	週2	・週に二回、授業の最初に小テストを行います。 ・単語帳は12頁前後の範囲です。	・隙間時間に単語帳や文法書しっかりと読み込み暗記しよう。 ・点数は評価（知識・理解）に組み入れます。	言語力

科目名	古典講読	３学年・選択	使用教科書	なし
		単位数：２単位	使用副教材	桐原書店「基礎から解釈へ　新しい古典文法　四訂新版」 桐原書店「基礎から解釈へ　漢文句法　五訂版」 桐原書店「読んで見て聞いて覚える　古文単語３１５」

学習目標

・古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を、古典文法や句法を理解しながら読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。
・言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学習方法

●授業ではプリントを使用します。各自で綴じ込むファイルを用意して下さい。●週に１回、授業の最初に小テストを行います。
●授業中には生徒に書き下し文や現代語訳を作成してもらいます。積極的に発表してください。●授業中の私語は周囲に迷惑をかける行為です、慎んで下さい。●現代語訳をインターネットで見つけて書き写すだけでは身につきません。自分で考えてみましょう。
●ファイルと副教材は毎回必ず持参して下さい。忘れ物をしてしまったときは、必ず朝のうちに職員室に来て申し出て下さい。授業直前で申し出られても対応はできません。
●学習の様子を見て、任意参加の補習授業を実施することがあります。もし、事前に希望がある場合には遠慮せずに申し出て下さい。●授業についていけず不安になった時は、遠慮せずに話して下さい。手立てを一緒に考えましょう。●授業に関する質問はいつでも受け付けていますので、遠慮せずに聞いて下さい。

学習評価

	評価の観点	評価の観点の説明
Ⅰ	知識・技能	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
Ⅱ	思考・判断・表現	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
Ⅲ	主体的に学びに向かう態度	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

他教科との関連性

該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
漢詩 秋浦歌・江南春 春夜・月夜	価値創造DTM	古来日本では、漢詩の詩情を表現するのに、素読に加えて独特のメロディをつける詩吟が行われてきた。そこで、漢詩の現代語訳を現代詩に寄せて作成し、それに曲を付ける活動を行ってみたい。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4	説話 『宇治拾遺物語』 検非違使忠明のこと	4	・説話のおもしろさを鑑賞する。 ・登場人物の行動に注目して読み、場面の展開を把握する。	次の点で評価します。 ・場面の展開を把握し、話のおもしろさを読み取ろうとしているか。 ・本文にある古文単語や文法事項を理解しているか。 ・この話から生まれたことわざを知り、その意味と使い方を理解しているか。 ・授業プリントや授業に主体的に取り組んでいるか。	学びに向かう姿勢
	5	故事成語 画竜点睛・漱石枕流	8	・漢文訓読に習熟する。 ・故事成語の意味の成り立ちを理解し、現在の用法に慣れる。	次の点で評価します。 ・訓点に従って正確に書き下し文を作成できているか。 ・本文にある語句や句法を理解し、現代語訳に取り組めているか。 ・この話から生まれた故事成語を知り、その意味と使い方を理解しているか。 ・授業プリントや授業に主体的に取り組んでいるか。	言語力
	6	随筆 『方丈記』 行く河の流れ	8	・作者の思想の基調を理解する。 ・対句的表現や比喩などの修辞技巧を理解し、的確な描写とその表現効果について考える。	次の点で評価します。 ・本文にある語句や文法事項、対句表現を理解しているか。 ・この話の背景にある思想を理解できているか。 ・授業プリントや授業に主体的に取り組んでいるか。	分析・判断力
	7	漢詩 「秋浦歌」「江南春」 「春望」「月夜」	4	・唐代・宋代の詩を繰り返し音読し、漢詩独特のリズムに習熟する。 ・近体詩の形式や表現について理解を深める。 ・詩人たちの人生観や自然観についての認識を深める。	次の点で評価します。 ・近体詩の詩形、押韻、作者について理解できているか。 ・詩に詠まれている情景や心情を読み取っているか。 ・現代語訳を現代詩の形にできているか。 ・主体的に、授業プリントに取り組み、授業において自分の考えを述べているか。	感受性
	8		2			感受性
	9	史伝を読む 『史記』 四面楚歌す	8	・長文の漢文に読み慣れ、漢文を読解し鑑賞する能力を増進する。 ・司馬遷の歴史観や人間観などを理解し、自分の人生観を高める。	次の点で評価します。 ・訓点に従って正確に書き下し文を作れているか。 ・句型に基づいて現代語訳ができているか。 ・項羽の心情について理解できているか。 ・主体的に、授業プリントに取り組み授業において自分の考えを述べているか。	他者理解
後期	10	軍記物語 『平家物語』 能登殿最期	8	・物語の展開に焦点を当てて読み、登場人物の言動、心情、生き方を読み取る。 ・用言を中心として文法事項を確認する。	次の点で評価します。 ・『平家物語』や軍記物語について関心を持ち、理解を深めようとしているか。 ・語句や文法に注意し、脚注などを参考に本文を現代語訳しているか。 ・登場人物がどのような人物であり、その心情を理解しているか。 ・主体的に授業プリントに取り組み、授業中に自分の考えを発表しているか。	他者理解
	11	日記文学 『更級日記』 あこがれ	8	・物語へのあこがれと夢を抱く作者の心情を理解する。 ・用言・助動詞を中心として文法事項を確認する。	次の点で評価します。 ・『更級日記』や作者について関心を持ち、理解を深めようとしているか。 ・登場人物を整理し、その言葉と行動、そこから見える心情を読み取っているか。 ・重要な語句や文法事項、『更級日記』の文学史上の位置づけについて理解しているか。 ・主体的に、授業プリントに取り組み、授業中に自分の考えを発表しているか。	他者理解
	12	歌物語 『伊勢物語』 初冠	6	・歌物語の特徴、和歌と地の文との関係や表現技巧を理解し味読する。 ・当時の人々の恋愛観・結婚観、ものの見方や考え方などについて認識を深める。 ・用言・助動詞の活用に習熟する。	次の点で評価します。 ・歌物語の特徴、和歌の表現技巧を理解しているか。 ・人生における通過儀礼のあり方について理解しているか。 ・主体的に、授業プリントに取り組み、授業中に自分の考えを述べているか。	言語力
	1	文章 李白「春夜宴桃李園序」	4	・文学は，常にその社会背景や作者の人生観・生き方の関わり合いによって生みだされていることを理解し、作者の生きた時代についても考える。	次の点で評価します。 ・李白についての知識を身につけているか。 ・句型に注意しながら正確に現代語訳ができているか。 ・作者の人生観や宴の楽しみを読み取っているか。	言語力
通年	4～1	読んで見て聞いて覚える 重要古文単語	週1	・週１回、１５頁程度を範囲として小テストを行います。 （詳細な範囲についてはガイダンス時に配付します）	・隙間時間に単語帳をしっかりと読み込み暗記しよう。 ・点数は評価（知識・理解）に組み入れます。	言語力

科目名	地理探究	３学年・選択	使用教科書	新詳地理探究　帝国書院・新詳高等地図　帝国書院
		単位数：３単位	使用副教材	新詳地理探究演習ノート　帝国書院

学習目標	地理的な視点を用いて社会の課題を探究し、解決を図る力を育成する 知識・理解　　：世界の地理的な事象（規則性・地域の特色）を理解し、地図や地理情報システムを活用し、調査・資料の情報を適切にまとめることができる。 思考力・判断力・表現力：地理的課題を多面的に考えることができる。地理的なデータを分析し、解決策を構想・説明・議論することができる。 学びに向かう力・人間性：地理的課題を主体的に探究し、よりよい社会の実現を考えようとする。日本の国土への理解を深め、世界の多様な生活文化を尊重しようとする。
学習方法	・講義形式の授業とグループワーク等を併用して授業を展開します。 ・毎回の授業を大切に、真剣に受講してください。講義を聞く姿勢やグループワークへの参加態度次第で知識の定着具合や思考力の伸び幅に大きな差が出ます。 ・教科書に出てくる用語は漢字でしっかりと書けるように努力しましょう。 ・「暗記」するのではなく１つの１つの内容を整理して論理的に考え、「理解」するよう努めましょう。

学習評価	評価の観点		評価の観点の趣旨
	Ⅰ	知識・技能	地理的な課題を探究する手法を理解し、地図や地理情報システム等を通して収集したデータを適切に整理・活用できる。
	Ⅱ	思考・判断・表現	地域や国土の特徴や課題を、多くの角度から考えることができる。探究活動の成果をまとめ、発表・表現できる。
	Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	地理的な課題に関心を持ち、解決策を考え、積極的に学習を進めることができる。日本や世界の地域社会について理解を深め、多様な価値観を尊重できる。

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
	第一部第一章４節 地球環境問題	情報Ⅰ	Webサイトの地図をもとに世界中で進行している環境問題の進行度を読み解く技術を身につける。タブレット端末等を活用し、授業で提示された課題について自分が住む地域と関連させながらまとめる技術を向上させる。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushirlety 5.0
前期	4	第1部第1章 自然環境	9	1　日本の自然環境 2　地球環境問題	タブレット端末等を活用しながら、世界中の気候や地形、環境に関する情報収集の技能を身につける	分析・判断力
	5	第１部第２章 資源と産業	12	1　農林水産業 2　食料問題 3　エネルギー・鉱産資源 4　資源・エネルギー問題 5　工業 6　第３次産業	国際社会における農林水産業、食料や産業について、地図をもとにしながら理解する	思考・判断・表現力
	6	第１部第３章 交通・通信と観光、貿易	9	1　交通・通信 2　観光 3　貿易と経済圏	人やモノの移動について、交通、観光、貿易の側面から分析し多文化社会が成立するきっかけを理解する	思考・判断・表現力
	7	第１部第４章 人口、村落・都市	9	1　人口 2　人口問題 3　都市・居住問題	世界における人口の分布、都市の成立過程などを学び、多種多様な生活環境の実態を把握する	情報活用能力
	8・9	第１部第５章 生活文化、民族・宗教	12	1　衣食住 2　民族・宗教と民族問題 3　国家の領域と領土問題	世界中の衣食住、民族・宗教を学び、国際社会における諸問題の原因、解決策を自分なりにまとめて発表する	探究心
後期	10	第２部第１章 現代世界の地域区分 第２部第２章 現代世界の諸地域	12	1　地域区分 2　中国 3　韓国 4　ASEAN諸国 5　インド	既習の内容を踏まえて、実際に世界各国の暮らしの様子について気候や地形と関連させながらまとめる能力を身につける	情報活用能力
	11	第２部第２章 現代世界の諸地域	12	1　西アジアと中央アジア 2　北アフリカとサハラ以南アフリカ 3　EU諸国 4　ロシア	既習の内容を踏まえて、実際に世界各国の暮らしの様子について気候や地形と関連させながらまとめる能力を身につける	情報活用能力
	12	第２部第２章 現代世界の諸地域	9	1　アメリカ合衆国 2　ラテンアメリカ 3　オーストラリアとニュージーランド	既習の内容を踏まえて、実際に世界各国の暮らしの様子について気候や地形と関連させながらまとめる能力を身につける	探究心
	1	第３部第１章 持続可能な国土像の探究	6	1　将来の国土の在り方 2　持続可能な日本の国土像の探究	日本の人口予測、ゼロカーボンの実現可能性、IoT社会の在り方など、自分で定めたテーマに応じた日本の将来像をまとめ、発表する	当事者意識

科目名	世界史探究	３学年・必修	使用教科書	詳説世界史　山川出版社
		単位数：４単位	使用副教材	詳説世界史整理ノート　山川出版社

学習目標

日本と世界の歴史を関連づけて学ぶことを通して歴史の因果関係を分析し、現代の国際問題や社会課題を歴史的な視点で考えて解決策を探る力を養う

知識・理解　　：日本と世界の歴史の大きな流れを学び、歴史的事象を正しく理解することができる。
思考力・判断力・表現力：歴史の因果関係を多角的に考え、歴史の出来事を論理的に整理して自分の意見を発表することができる。
学びに向かう力・人間性：現代の社会課題を歴史的視点で考えるとともに、異文化理解を深め多様な価値観を尊重する。

学習方法

・講義形式の授業とグループワーク等を併用して授業を展開します。
・毎回の授業を大切に、真剣に受講してください。講義を聞く姿勢やグループワークへの参加態度次第で知識の定着具合や思考力の伸び幅に大きな差が出ます。
・教科書に出てくる用語は漢字でしっかりと書けるように努力しましょう。
・「暗記」するのではなく物語として捉え、「理解」するよう努めましょう。

学習評価

	評価の観点		評価の観点の趣旨
学習評価	Ⅰ	知識・技能	世界の歴史の流れをつかみ、適切な史料やデータを収集・活用できる
	Ⅱ	思考・判断・表現	世界の歴史のつながりを分析し、それに基づいた自分の考えを説明できる
	Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	歴史を現代社会の課題と結びつけ、積極的に探究しようとする。異文化を理解し、多様な価値観を尊重しようとする

他教科との関連性

該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
第1部 諸地域の歴史的特質の形成	古典探究	漢文で書かれていることの根拠を歴史的な事象を照らし合わせ、考察する

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushirlety 5.0
前期	4・5・6	第1部 諸地域の歴史的特質の形成	35	1　文明の成立と古代文明の特質 2　中央ユーラシアと東アジア世界 3　南アジア世界と東南アジア世界の展開 4　西アジアと地中海周辺の国家形成 5　イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	世界各地の諸文明の成立を理解し、文化、民族アイデンティティ、宗教の成立と発展の変遷についてまとめる。	分析・判断力
	7・8・9	第２部 諸地域の交流・再編	35	1　イスラーム教の伝播と西アジアの動向 2　ヨーロッパ世界の変容と展開 3　東アジア世界の展開とモンゴル帝国 4　大交易・大交流の時代 5　アジアの諸帝国の繁栄 6　近世ヨーロッパ世界の動向	世界各地で成立した諸国家の興亡に関する経緯を学び、国家繁栄と衰退の共通点、相違点について自分なりにまとめ考察する	思考・判断・表現力
後期	10・11・12	第３部 諸地域の結合・変容	40	1　産業革命と環大西洋革命 2　イギリスの優位と欧米国民国家の形成 3　アジア諸地域の動揺 4　帝国主義とアジアの民族運動 5　第一次世界大戦と世界の変容 6　第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	産業革命から帝国主義に至る世界全体の変容をまとめ、現代社会につながる世界全体の結合と変容について理解する	思考・判断・表現力
	1	第四部 地球世界の課題	10	1　冷戦と第三世界の台頭 2　冷戦の終結と今日の世界	既習の内容を踏まえて、実際に起きた事件、紛争の背景や原因について考察する	探究心

科目名	数学C	3学年・選択	使用教科書	『数学C Progress』実教出版
		単位数：3単位	使用副教材	『エクセル数学B・C　新課程版』実教出版

学習目標	（1）ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 （2）大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 （3）数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
学習方法	○一斉授業またはグループ学習　※積極的に授業を受けてください。また、予習は個々の判断に任せますが、復習は欠かさないようにしましょう。 ○授業の持ち物 ・教科書　・副教材　・ノート

学習評価		評価の観点	評価の観点の趣旨
	Ⅰ	知識・技能	ベクトルまたは平面上の曲線、複素平面における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。 ベクトルまたは平面上の曲線、複素平面において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。
	Ⅱ	思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的に考えたりすることなどを通して、ベクトルまたは平面上の曲線、複素平面における数学的な見方や考え方を身につけている。
	Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	ベクトルまたは平面上の曲線、複素平面に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
	ベクトル・2次曲線	物理・体育	物体を投げたとき、その物体が描く軌跡は放物線である。その放物線を数式化することで、どのくらいの力で投げればどのような放物線を描くかを、視覚と数式と２つの視点から理解する。また、その際に放物線にかかる力を水平ベクトルと垂直ベクトルとに分けることによって、力のベクトルについても理解する。 また、実際にバスケットボールを投げ、どのような放物線を描けばゴールに入れることができるか実験する。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4 5 6 7	オリエンテーション 1章　ベクトル 1節　平面上のベクトル 2節　ベクトルの応用 3節　空間のベクトル	35	・ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	・前期中間考査 【知】【思】 ・小テスト 【知】 ・課題、宿題、ノート提出等 【主】	思考・判断・表現力 思考・判断・表現力
前期	8 9	2章　複素数平面 1節　複素数平面	20	・複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・前期期末考査 【知】【思】 ・小テスト 【知】 ・課題、宿題、ノート提出等 【主】	思考・判断・表現力 思考・判断・表現力
後期	10 11 12 1	3章　平面上の曲線 1節　2次曲線 2節　媒介変数表示と極座標	35	・平面上の曲線がいろいろな式で表されることについて理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・後期中間考査 【知】【思】 ・小テスト 【知】 ・課題、宿題、ノート提出等 【主】 ・学年末考査 【知】【思】 ・小テスト 【知】 ・課題、宿題、ノート提出等 【主】	思考・判断・表現力

科目名	数学研究	3学年・選択	使用教科書	なし
		単位数：2単位	使用副教材	なし

学習目標

（1）基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
（2）事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
（3）数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習方法

○一斉授業またはグループ学習　※積極的に授業を受けてください。また、予習は個々の判断に任せますが、復習は欠かさないようにしましょう。
○授業の持ち物
・必要に応じて1年生の時に使用した教科書、副教材

学習評価

	評価の観点	評価の観点の趣旨
Ⅰ	知識・技能	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、2次関数、図形と計量およびデータの分析、場合の数と確率、整数の性質または図形の性質おける基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解するとともに、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の技能を身につけている。
Ⅱ	思考・判断・表現	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、2次関数、図形と計量およびデータの分析、場合の数と確率、整数の性質または図形の性質における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉え、論理的に考察するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考察し、表現できる。
Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、2次関数、図形と計量およびデータの分析、場合の数と確率、整数の性質または図形の性質における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。

他教科との関連性

該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
データの分析、場合の数と確率	体育	「戦略的に勝つ　～データから最善の策を導き出そう～」 どんなスポーツにも戦略があり、競技レベルが上がれば上がるほどその重要性は増していく。勝利のためには日々鍛錬して、個々人の体力や技術力、チームとしての連携力などを上げていく必要があるのは言うまでもない。しかし、近年は各個人や各試合のデータを詳細に集め、その膨大なデータを分析したうえで確率的に「勝つための最善手」を見つけ出す手法があらゆる競技において研究され、取り入れられている。今やスポーツはデータ戦の様相を呈してきた。数学Ⅰ・Aで学ぶ「データの分析」や「場合の数と確率」の知識を用いることで、今スポーツの世界で起きている進化を感じ取ることができる。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4 5	○オリエンテーション ○数と式、集合と論証、証明の応用方法、発展問題 ○2次関数とその活用方法、他分野との関連問題	12	【学習内容】 ○数学Ⅰ・Aの全範囲	・小テスト 【知】【思】 ・課題、宿題、ノート提出等 【主】	**思考・判断・表現力**
	6 7	○図形と計量と図形の性質の関連問題 ○データの分析の応用方法、発展問題	12			**思考・判断・表現力**
	8 9	○場合の数と確率と他分野との関連問題、その活用方法	12		・小テスト 【知】【思】 ・課題、宿題、ノート提出等 【主】	**思考・判断・表現力**
後期	10 11	○整数の性質とその活用方法、応用問題	12		・小テスト 【知】【思】 ・課題、宿題、ノート提出等 【主】	**思考・判断・表現力**
	12 1	○全分野を横断した数学の活用、実践問題	12		・小テスト 【知】【思】 ・課題、宿題、ノート提出等 【主】	**思考・判断・表現力**

科目名	数学探究	3学年・選択	使用教科書	なし
		単位数：2単位	使用副教材	『攻略！　共通テスト　数学Ⅰ＋A　Ⅱ＋B＋C』東京書籍編集部

学習目標

（1）基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
（2）事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
（3）数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習方法

〇一斉授業またはグループ学習　※積極的に授業を受けてください。また、予習は個々の判断に任せますが、復習は欠かさないようにしましょう。
〇授業の持ち物
・必要に応じて２年生の時に使用した教科書、副教材

学習評価

	評価の観点	評価の観点の趣旨
Ⅰ	知識・技能	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、2次関数、図形と計量およびデータの分析、場合の数と確率、整数の性質または図形の性質おける基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解するとともに、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の技能を身につけている。
Ⅱ	思考・判断・表現	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、2次関数、図形と計量およびデータの分析、場合の数と確率、整数の性質または図形の性質における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉え、論理的に考察するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考察し、表現できる。
Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、2次関数、図形と計量およびデータの分析、場合の数と確率、整数の性質または図形の性質における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。

他教科との関連性

該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
三角関数	物理	「ノイズ・キャンセリングの仕組みを調べよう」 現代は、動画や音楽などを誰でも気軽に楽しめる時代である。ちょっとした空き時間にイヤホンで音楽を聴く人も多いだろう。昨今のイヤホンは音質の良さのみでなく、周りの雑音を消し動画や音楽への没入感を作り出す技術、いわゆる「ノイズ・キャンセリング機能」を売りにしている商品も多い。では、この技術はどのようにして成り立っているのだろうか。音を、空気中を伝わる波の一種として捉えると、その仕組みの一端に触れることができるだろう。あらゆる波は、その表現に正弦曲線（サインカーブ）が用いられている。オシロスコープと三角関数の知識を用いて、波の姿を捉え、「ノイズ・キャンセリング機能」の秘密を解き明かすことができる。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4 5	〇オリエンテーション 〇方程式･式と証明の応用方法、発展問題	12	【学習内容】 〇数学Ⅰ・Aの全範囲	･小テスト 【知】【思】 ･課題、宿題、ノート提出等 【主】	**思考･判断･表現力**
前期	6 7	〇図形と方程式の応用方法、発展問題	12			**思考･判断･表現力**
前期	8 9	〇三角関数の応用方法、発展問題	12		･小テスト 【知】【思】 ･課題、宿題、ノート提出等 【主】	**思考･判断･表現力**
後期	10 11	〇指数関数･対数関数の応用方法、発展問題 〇微分と積分法の応用方法、発展問題	12		･小テスト 【知】【思】 ･課題、宿題、ノート提出等 【主】	**思考･判断･表現力**
後期	12 1	〇数列の応用方法、発展問題 〇確率分布と統計的な推測の応用方法、発展問題	12		･小テスト 【知】【思】 ･課題、宿題、ノート提出等 【主】	**思考･判断･表現力**

科目名	物理	3学年・選択	使用教科書	「物理」数研出版
		単位数：4単位	使用副教材	「新課程　リードα　物理基礎・物理」数研出版

学習目標

（1）　物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。
（2）　観察，実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
（3）　物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

学習方法

授業は全員で作っていくものです。自ら進んで課題に挑戦し、些細な疑問、質問、意見等は遠慮せずに発して下さい。授業始めはあまり難しくないと感じることがあると思いますが、徐々にわからないことが増えていくと思います。わからないままにしてしまうと、他の単元に繋がっていることもあるためわからないことが増えていきます。早めに対処してください。
【授業に持参する物】　□教科書　　□問題集　□プリントを保管するクリアファイルやリングファイル　　□ノート（メモ用、ワーク用）
※　忘れ物は授業前に必ず伝えてください。
※　授業前には必ず必要な物を机上に準備し、座席に着席すること。

学習評価

	評価の観点		評価の観点の説明
	Ⅰ	知識・技能	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けている。
	Ⅱ	思考・判断・表現	観察、実験などを行い，学的に探究する力を身に付けている。
	Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	物理的な事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度が身についている。

他教科との関連性

該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
気体のエネルギーと状態変化	世界史	産業革命と物理がどのようにかかわっているか考える。 蒸気機関について物理の気体のエネルギーが大きく関わっている。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4	オリエンテーション 平面内の運動 剛体	10	①放物運動を式で表し、運動の詳細について数値を求め予測することができる。 ②力のモーメントの概念を理解し、物体が静止する条件について考えることができる。	【評価方法】 □授業プリント　□小テスト　□提出物　□定期テスト　□授業態度　など 【学習の目標】 水平投射及び斜方投射された物体の運動を直線運動と関連付けて理解する。 剛体のつり合う条件を見いだして理解する。	学びに向かう姿勢
	5	運動量の保存 円運動と万有引力	20	①物体の衝突時の運動量やエネルギーについて式で表し、衝突の様子を数値で説明することができる。 ②円運動の様子の表し方を理解し、その内容を活用し身近な運動や惑星の運動について考えることができる。	【評価方法】 □授業プリント　□小テスト　□提出物　□定期テスト　□授業態度　など 【学習の目標】 運動量と力積との関係について理解する。 衝突に点する力学的エネルギーの変化について理解する。 円運動をする物体の様子を表し方やその物体に働く力について理解する。	ひらめき力
	6	気体のエネルギーと状態変化 波の伝わり方	15	①理想気体が従う法則や気体粒子の運動について説明することができる。 ②気体の諸法則から内部エネルギーの変化について考えることができる。 ③波の基本的な性質について理解し、式等を用いて説明することができる。	【評価方法】 □授業プリント　□小テスト　□提出物　□定期テスト　□授業態度　など 【学習のポイント】 気体の内部エネルギーについて，気体分子の運動と関連付けて理解する。 波について，日常生活や社会と関連付けて，次のことを理解するとともに，それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。	情報活用能力
	7	音の伝わり方 光（回折格子・レンズ）	12	①身近な現象から音の伝わり方について理解し、ドップラー効果における音波の伝わり方について式で説明することができる。 ②光の干渉・回折、レンズについて図を用い規則性や法則を導くことができる。	【評価方法】 □授業プリント　□小テスト　□提出物　□定期テスト　□授業態度　など 【学習の目標】 音のドップラー効果について理解する。 光の回折と干渉を光波の性質と関連付けて理解する。	情報収集力
	8	光（鏡・薄膜）	7	①鏡や薄膜での光の進み方について図を活用し説明し、規則性や法則を導くことができる。	【評価方法】 □授業プリント　□小テスト　□提出物　□定期テスト　□授業態度　など 【学習の目標】 鏡や薄膜での光の進み方について理解する。	探究心
	9	電場	13	①クーロンの法則やエネルギーに関する諸法則から、電場や電位、はたらく力などについて考え、式や図で表すことができる。 ②コンデンサーの役割について理解し、その仕組みを説明することができる。	【評価方法】 □授業プリント　□小テスト　□提出物　□定期テスト　□授業態度　など 【学習の目標】 電場や電位、はたらく力などについて理解する。 コンデンサーの役割について理解する。	思考・判断・表現力
後期	10	回路を流れる電流 電流と磁場	14	①基本的なオームの法則やキルヒホッフの法則等を用いて、様々な電気回路の仕組みについて考えることができる。 ②電流が作る磁場を図で表し、働く力や諸法則について説明することができる。	【評価方法】 □授業プリント　□小テスト　□提出物　□定期テスト　□授業態度　など 【学習の目標】 電気回路における基本的な法則を理解する。 電流がつくる磁界の様子を理解する。	実践力
	11	電磁誘導と電磁波	12	①電磁誘導の発生の仕組みについて理解し、式で説明することができる。 ②電磁誘導の考え方を活用し、交流回路の仕組みを理解する。 ③様々な交流回路について考えることができ、式やグラフを用いて説明することができる。	【評価方法】 □授業プリント　□小テスト　□提出物　□定期テスト　□授業態度　など 【学習の目標】 磁束の変化と誘導起電力の向きや大きさとの関係を見いだして理解するとともに，電磁誘導の法則を理解する。また，交流の発生について理解する。	思考・判断・表現力
	12	電子と光 原子と原子核	12	①光の粒子性や粒子の波動性といった研究で明らかになった現象について、これまでの学習内容を活用し説明することができる。 ②社会で活用されてる科学技術について調べ、これまでに学習内容と関連付けることができる。	【評価方法】 □授業プリント　□小テスト　□提出物　□定期テスト　□授業態度　など 【学習の目標】 電子の電荷と質量について理解する。また、電子や光の粒子性と波動性について理解する。 原子の構造及びスペクトルと電子のエネルギー準位との関係について理解する 。また、原子核の構成，原子核の崩壊及び核反応について理解する。	情報活用能力
	1	演習	5	①学習内容を活用し、式やグラフなどで様々な物理現象について説明することができる。	【評価方法】 □小テスト　□提出物　□定期テスト　□授業態度　など 【学習の目標】 電子の電荷と質量について理解する。また、電子や光の粒子性と波動性について理解する。 原子の構造及びスペクトルと電子のエネルギー準位との関係について理解する 。また、原子核の構成，原子核の崩壊及び核反応について理解する。	チャレンジ精神

科目名	理科研究	3学年・選択	使用教科書	必要に応じて、1、2年生の時に使用した理科の教科書（化学基礎、生物基礎、物理基礎、化学）
		単位数：2単位	使用副教材	必要に応じて、1、2年生の時に使用した理科の図表（化学基礎、生物基礎、物理基礎、化学）

学習目標	(1) 理科における基本的な概念，原理・法則などについての系統的な理解を深め，探究するために必要な知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 多角的、複合的に事象を捉え、科学的に考察し表現する力などを養うとともに創造的な力を高める。 (3) 理科などに関する事象や課題に向き合い、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度を養う。
学習方法	授業は生徒と教員でつくっていくものです。自ら進んで課題に挑戦し、些細な疑問、質問、意見等は遠慮せずに聞いて下さい。ただし、私語は厳禁です。 その日に習った内容に関しては、必ずその日のうちに教科書を一読し、授業で使用したワークシート等を用いて復習しましょう。中学校までに学習してきた内容もありますが、高校では内容がより深まりますので、一度の授業だけで定着や理解が深まることは難しいです。また、授業では基礎的・基本的な内容を扱いますので、より深く学習したい人は問題集等を各自家庭学習に用いてかまいません。 【授業に持参する物】　□ノート（メモをする）　□プリントを保管するクリアファイルやリングファイル　□調べものやデータをまとめるためのdynabook（又はタブレット） ※　忘れ物は授業前に必ず伝えてください。 ※　授業前には必ず必要な物を机上に準備し、座席に着席すること。

学習評価	評価の観点		評価の観点の説明
	Ⅰ	知識・技能	理科における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深め、探究するために必要な知識や技能を身に付いている。
	Ⅱ	思考・判断・表現	多角的、複合的に事象を捉え、科学的に考察し表現する力などを養うとともに創造的な力を高めている。
	Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	理科などに関する事象や課題に向き合い、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度が身についている。

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
	探究活動	すべての教科	理科はすべての教科と共通する部分を持っているので、理科をベースに他教科のつながりを探して、教科横断を実施していく。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4	・オリエンテーション ・理科実験、探究活動を行う際の知識習得	8	理科を探究するために必要な知識や計画の立て方などを学ぶ。	【評価方法】 ・小テスト　・レポート等の成果物 ・実験の技能　・自己評価他己評価　など 【学習のポイント】 ・主体的に行動できるように、実験を行う意味、目的の目標の明確化、探究の仕方などを学びます。	学びに向かう姿勢
	5	・物理探究 ・化学探究 ・生物探究 ・地学探究	6	物理実験、化学実験、生物実験、地学実験を通して、科学的な思考や実験結果のまとめ方、探究方法を学ぶ。	【評価方法】 ・小テスト　・レポート等の成果物 ・実験の技能　・自己評価他己評価　など 【学習のポイント】 ・今までの授業で行ってきた実験との向き合い方、考え方を変えます。実験の楽しさを感じることはもちろんですが、実験の準備から操作手順、考察まで、なぜこのような構成になっているのかを深く考えてもらいます。それが自分で実験計画をたてるときの役立つヒントになることを学びます。 ・物化生地の特性と各科目のつながりを考え、理科という教科の面白さを知り、身近にどのように使われているのかを考えてもらいます。	思考・判断・表現力
	6		6			言語力
	7		6			ひらめき力
	8		6			チーム力
	9	・実験系を考える。	10	教科書などに載っている既存の実験を参考に、実験の目的と目標、操作、考察などを意識して、他の生徒に実験を紹介し、実際にやってもらう。その後、事前と事後で考えていた結果の違いを振り返り、改善点を考える。	【評価方法】 ・小テスト　・レポート等の成果物 ・実験の技能　・自己評価他己評価　など 【学習のポイント】 ・目的を明確にし、自分の言葉で理科の事物や現象を人に伝えることを理科の実験を通して学びます。計画の立案を文章にし、また授業で使用するレポート用紙等も作成してもらいます。自分よがりにならず相手の立場になって、どうすれば人に伝えることができるかを考えます。	分析・判断力
後期	10					思いやり
	11	・探究活動 ・中間報告 ・成果報告	18	・探究してみたいテーマを教員側から提示また自分で考え、計画を立てる。（できるだけ奥所でしかできない、長期的なデータ収集を必要とするテーマを立てる。） ・探究テーマに沿って必要なデータを収集し、結果をまとめ、結果に対する考察を行う。論理的に説明することができるようにパワーポイントなどでまとめる。 ・最終的に探究活動の成果を発表する。	【評価方法】 ・小テスト　・レポート等の成果物 ・実験の技能　・自己評価他己評価 【学習のポイント】 ・今までの授業で学んだ知識と考え方を用いて、理科に関する探究してみたいテーマを選択する。計画立案からデータ収集、結果のまとめと考察、そして最後に口頭での発表までを行う。進捗状況の見える化（管理）や足りないデータのための追実験など、先生と話合いをしながら進めていきます。 ・自分のテーマに責任をもって取り組んでもらいます。研究は結果が思い通りにでなくても、それが重要な知見になります。誰が同じようにやってもできる再現性を確認しながら取り組んでほしいと思います。	プランニング能力
	12					探究心
	1					課題発見力

科目名	体育	３学年・必修	使用教科書	
		単位数：３単位	使用副教材	

学習目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを 深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 （２）生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 （３）運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
学習方法	（１）授業前の準備を速やかに行い、チャイムが鳴る前までに必要なものを用意し整列すること。 （２）授業中は、常に危機管理意識をもつこと。 （３）授業中は、自分のみならず他者の健康・安全を確保すること。 （４）授業後の片づけは速やかに行い、次時の授業に遅れないようにすること。 ※ 忘れ物があった場合は、できるだけ早めに伝えに来ること。遅い場合は対応できません。

学習評価	評価の観点		評価の観点の説明
	Ⅰ	知識・技能	（１）運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解している。 （２）上記（１）の技能を身に付けている。
	Ⅱ	思考・判断・表現	（１）生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断している。 （２）自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。
	Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	（１）生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとしている。 （２）健康・安全を確保している。

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
	ベクトル･2次曲線	物理・体育	物体を投げたとき、その物体が描く軌跡は放物線である。その放物線を数式化することで、どのくらいの力で投げればどのような放物線を描くかを、視覚と数式と２つの視点から理解する。また、その際に放物線にかかる力を水平ベクトルと垂直ベクトルとに分けることによって、力のベクトルについても理解する。 また、実際にバスケットボールを投げ、どのような放物線を描けばゴールに入れることができるかを実験する。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Ciusshiriety 5.0
前期	4	オリエンテーション	1	体育の授業の流れや評価方法を理解し、１年間の授業の見通しを持つ。		プランニング能力
	4	ニュースポーツ	7	他国の伝統的・民族的スポーツや、20世紀後半に考案された現代的スポーツに触れ、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を身に付ける。	評価方法 ・観察・出席 学習のポイント ・公正、協力、責任、参加、共生などの社会的態度を大切にする。 ・現在及び将来の実生活、実社会で計画的、継続的に運動やスポーツを実践するための資質能力を身に付ける。	情報活用能力
	5	バレーボール	12	勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなど多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携したゲームを展開する。	評価方法 ・観察・出席・技能テスト 学習のポイント ・公正、協力、責任、参加、共生などの社会的態度を大切にする。 ・現在及び将来の実生活、実社会で計画的、継続的に運動やスポーツを実践するための資質能力を身に付ける。	つながり力
	6	バスケットボール	12	勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなど多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携したゲームを展開する。	評価方法 ・観察・出席・技能テスト 学習のポイント ・公正、協力、責任、参加、共生などの社会的態度を大切にする。 ・現在及び将来の実生活、実社会で計画的、継続的に運動やスポーツを実践するための資質能力を身に付ける。	チーム力
	7 8	ゴルフ	7	多様な楽しさや喜びを深く味わい、用具を用いて、様々な状況に対応しながら、ボールを標的に運ぶことができるようにする。	評価方法 ・観察・出席 学習のポイント ・公正、協力、責任、参加、共生などの社会的態度を大切にする。 ・現在及び将来の実生活、実社会で計画的、継続的に運動やスポーツを実践するための資質能力を身に付ける。	チャレンジ精神
後期	9 10	陸上 （長距離）	10	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身に付ける。また、体力の高め方を理解し、自己に適した運動計画を立てる。	評価方法 ・観察・出席 学習のポイント ・公正、協力、責任、参加、共生などの社会的態度を大切にする。 ・現在及び将来の実生活、実社会で計画的、継続的に運動やスポーツを実践するための資質能力を身に付ける。	完遂力
	11	卓球	15	勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなど多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能でゲームを展開する。	評価方法 ・観察・出席・技能テスト 学習のポイント ・公正、協力、責任、参加、共生などの社会的態度を大切にする。 ・現在及び将来の実生活、実社会で計画的、継続的に運動やスポーツを実践するための資質能力を身に付ける。	探究心
	12	バドミントン	15	勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなど多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携したゲームを展開する。	評価方法 ・観察・出席・技能テスト 学習のポイント ・公正、協力、責任、参加、共生などの社会的態度を大切にする。 ・現在及び将来の実生活、実社会で計画的、継続的に運動やスポーツを実践するための資質能力を身に付ける。	分析・判断力
	1	体育理論	11	卒業後においても、ライフステージやライフスタイルに応じた、無理なくスポーツを継続するための見通しを持つ。	評価方法 ・観察・出席 学習のポイント ・公正、協力、責任、参加、共生などの社会的態度を大切にする。 ・現在及び将来の実生活、実社会で計画的、継続的に運動やスポーツを実践するための資質能力を身に付ける。	つながり力

科目名	危機管理スポーツ	３学年・選択	使用教科書	
		単位数：３単位	使用副教材	

学習目標	卒業後様々な分野で活躍する生徒が多い本校の現状を踏まえ、既習科目の知識や技能を積極的に活用し、健康の保持増進のための実践力を育成する。また、震災を経験した本島を学びの資源とし、スポーツを通して自己防衛力を高める。
学習方法	（１）授業前の準備を速やかに行い、チャイムが鳴る前までに必要なものを用意し整列すること。 （２）授業中は、自分のみならず他者の健康・安全を確保すること。 （３）授業後の片づけは速やかに行い、次時の授業に遅れないようにすること。

学習評価	評価の観点		評価の観点の説明
	Ⅰ	知識・技能	十分な自己防衛力（筋力・スピード・持久力・平衡性・柔軟性・協調性）がある。 十分な知識がある。
	Ⅱ	思考・判断・表現	知識に基づき、思考・判断したことを他者に分かりやすく伝えることができる。
	Ⅲ	主体的に学びに向かう態度の観点	当事者意識を持ち、他者と協働して意欲的に取り組んでいる。

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
	総合的な探究の時間	・東京パブリシティ支部 ・スクールボランティア ・他校にじ（ラジョップ）	総合的な探究の時間において、地域社会や学校生活とのかかわりについて防災やスポーツの視点から探究を進める。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4	オリエンテーション	1	学習内容と評価方法を理解し、１年間の見通し持つ。		プランニング能力
	5	テーピング	15	テーピングの役割や種類を理解し、状況に応じたテーピングができるようになる。	テーピング ・役割 ・種類 ・実技	デザイン力
	6	応急手当	15	状況に応じた基本的な方法や手順があることを理解し、実習を通して適切な応急手当ができるようになる。	応急手当 ・意義 ・実技	当事者意識
	7 8	着衣泳	10	衣服を着たまま上手に泳ぐことではなく、衣服を着たまま、衣服を着ているメリットを活かし、水に入った時の対処ができるようになる。	着衣泳 ・波 ・浮力 ・実技	情報活用能力
後期	8 9 10	球技　ゴール型 （ラグビー）	15	ラグビーを通じて自己防衛力を高める。 ラグビーのノーサイドの精神を理解する。	ラグビー ・実技（タグラグビーを基盤とし、筋力・スピード・持久力・平衡性・柔軟性・協調性を高める。）	チャレンジ精神
	11 12	防災教育	17	活動を通して自己防衛力や当事者意識を高める。	防災教育 ・資料動画観賞 ・運動計画作成、実施 ・種目作成	当事者意識
	12 1	パラスポーツ	17	国際的なスポーツ大会などが果たす文化的役割を理解する。また、現代スポーツが持つ意義や価値を探究する。	パラスポーツ ・パラリンピックの歴史 ・パラリンピックが持つ国際的役割 ・国際スポーツ大会の文化的価値 ・実技	思いやり

科目名	演奏研究	３学年・選択	使用教科書	なし
		単位数：４単位	使用副教材	なし

学習目標

音楽作品の演奏や鑑賞の学習を通じて、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次の通り育成することを目指す。
(1)演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身に付けるようにする。
(2)音楽の様式を踏まえた演奏に関する思考力、判断力、表現力等を育成する。
(3)音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。

学習方法

1　楽譜、ワークシートなどを多く配付します。配付物を整理するために、専用のファイルを用意してください。
2　音楽室にある机や椅子などの備品、リコーダーなどの楽器の取り扱いには、十分注意をしてください。
3　各研究課題に応じて、グループや個人での練習を行います。必要に応じて適宜鑑賞活動を行います。
4　研究の成果や今後の見通しを明確にするため、毎時間開始・終了時に「PDCAシート」に目標と振り返りを記入します。技術的な課題や、疑問点などを積極的に記録しましょう。
5　定期的に中間発表会などで発表・交流を行うとともに、最終発表会では演奏会形式で校内外に研究の成果を発信します。

学習評価

	評価の観点	評価の観点の趣旨
Ⅰ	知識・技能	①演奏や鑑賞の学習を通して、時代や地域、様式及び演奏形態などに即した表現方法や解釈があることを理解している。 ②創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、客観性と多様性を踏まえ創造的に歌唱、器楽、創作で表している。
Ⅱ	思考・判断・表現	①様式の理解を深めながら作品を解釈し、演奏の観点からフレージング、アーティキュレーションなどの表現方法を具体的に研究している。 ②解釈の多様性を理解したうえで、独善的な解釈に陥ることなく、個性を生かした演奏を追求している。
Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に演奏及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

他教科との関連性

該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
STAGE MANAGEMENT 最終発表会について考えよう	総合的な探究の時間（町おこしワークショップ）	町おこしワークショップの最終報告会に向けた広報・運営の動きや、プレゼンテーションで培った表現力・発信力を活かして、特色あるコンサートを企画・実施する。

学期	月	単元名（教材）	配当時数	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4	オリエンテーション	1	演奏研究の目標や内容を確認し、１年間の学習の見通しを持つとともに、学習意欲を養う。	演奏研究の授業の進め方や、PDCAシートの活用について、1年間の学習活動について確認します。	学びに向かう姿勢
		PRACTICE 1 みんなでセッション！	12	合唱および合奏の活動を通して、演奏における客観性と多様性について理解を深める。	全員またはグループによる合唱や合奏に挑戦します。楽曲や演奏形態についても、各自の興味・関心に応じて検討しましょう。演奏研究での学習のスタイルを確立しましょう。	実践力
	5	PRACTICE 2 課題を決めてグループ合奏にチャレンジ！	15	歌唱や器楽の表現に関わる知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに歌唱や器楽の表現を創意工夫する。	グループによる合唱や合奏に挑戦します。4月での取り組みの内容を活かしてより良い演奏を目指しましょう。	チーム力
	6／7	PERFORMANCE 1 奥高祭に向けて、ステージをデザインしよう		奥高祭に向けて、魅力的なプログラムやパフォーマンスについて検討し、演奏ステージをデザインする。	4月以降取り組んできた成果を総合的に判断して、奥高祭でのステージ発表について全体で検討します。より魅力的なプログラムにするために、適宜鑑賞などを取り入れステージ像を明確に構築していきます。	デザイン力
	7／8	STAGE 1 自分の専攻について研究発表をしよう	12	声や楽器の特徴を踏まえた解釈および演奏や楽器に関する研究を通して、客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを他者に向けて発信する。	今後極めてみたい自分の専攻楽器について調べ、その研究をスライド等にまとめプレゼンします。 【昨年度の研究内容】 「調」について、ギター・コードについて、フルートの歴史、パイプオルガンの歴史、トランペットの仕組み、鍵盤ハーモニカの秘密など	探究心
		STAGE 2 まずは個人の演奏技能を高めよう	12	音楽表現の創意工夫や表現上の効果を生かした歌唱または器楽の表現をするために必要な技能を身に付ける。	個人またはグループで課題を決めて演奏研究に取り組みます。 【演奏形態例】 ピアノ独奏・連弾、声楽、合唱（アカペラを含む）、リコーダー独奏・合奏、トーンチャイム、ハンドベル、ギター独奏・弾き語り・合奏、文化箏合奏、管楽器独奏・アンサンブル、ボディーパーカッション、器楽合奏など	思考・判断・表現力
	9	PERFORMANCE 2 中間発表会① 研究の成果を披露しよう	3	音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。	これまでの研究成果を発表・交流します。演奏は途中まででも構いません。発表に向けた演奏者としての取り組みの態度はもちろん、発表の際の「聴く側」の姿勢も大切です。仲間の演奏やその作品に対して敬意をもって鑑賞しましょう。	傾聴力
		STAGE 3 思いや意図を持って演奏表現しよう	15	作曲家の表現の特徴を踏まえた解釈及び演奏に関する研究を通して、音楽の様式を踏まえた演奏に関する思考力、判断力、表現力等を身に付ける。	研究を進める中で明らかになった課題や、演奏したいと感じた思いや意図をもとに研究を進めましょう。その楽曲「らしさ」を追究することも大切にしましょう。	チャレンジ精神
後期	10	STAGE MANAGEMENT 最終発表会について考えよう	2	最終発表会に向けて、聴衆を感動させるためのコンサートプログラムや必要な役割分担などを検討する。	コンサートを企画します。開催する1月末に向けて、ステージマネジメントの観点から、プログラムや照明、タイムキーパー、司会、舞台設営、受付なども含めて１から役割分担をします。自分の係については、10月以降の演奏研究の合間に必要な準備を進めておき、総括に進捗状況を報告します。	プランニング能力
		PERFORMANCE 3 中間発表会② 研究の成果を披露しよう	3	時代や地域による表現上の特徴を踏まえた解釈及び演奏に関する研究を通して、演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身に付ける。	芸術の秋です。コンサートを見据えて本格的に演奏に励みましょう。日々の時間の使い方によって最終的な演奏の到達度が大きく変化します。必要なことがあれば、自ら進んで調べたり、担当教員に質問することを意識して取り組みましょう。	分析・判断力
		STAGE 4 コンサートに向けてさらに演奏研究を進めよう	15	音楽の解釈の多様性について学習することを通して、演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身に付ける。		
	11	PERFORMANCE 4 中間発表会③ 研究の成果を披露しよう	3	音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。	最後の中間発表会です。ここまでの進捗状況によって、当日の演奏曲目などを確定させていきます。	メタ認知
		STAGE 5 当日に向けて入念なリハーサルをしよう	12	声や楽器の特徴を踏まえた解釈および演奏や楽器に関する研究を通して、客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身に付ける。	ひたすら練習に励みましょう。	進む力
	12		10	歌唱や器楽の表現に関わる知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに歌唱や器楽の表現を創意工夫する。		レジリエンス力
	1	FINAL STAGE 芸術科最終発表会	5	魅力的な音楽発表会を実施することで、校内および町内の音楽文化の振興に資する。	1年間の集大成として、素晴らしい演奏を期待しています。	完遂力

科目名	価値創造DTM	３学年・選択	使用教科書	なし
		単位数：３単位	使用副教材	なし

学習目標	作曲に関する学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1)作曲に関する多様な技法などについて理解を深めるとともに、創造的に作曲するために必要な技能を身に付けるようにする。 (2)音楽性豊かな楽曲の構成について考え、表現意図を明確に持つことができるようにする。 (3)音楽表現の可能性を追求する態度を養う。
学習方法	1　楽譜、ワークシートなどを多く配付します。配付物を整理するために、専用のファイルを用意してください。 2　音楽室にある机や椅子などの備品、リコーダーなどの楽器の取り扱いには、十分注意をしてください。 3　授業に使用する持ち物を忘れた場合は、**必ず朝のうちに**申し出てください。授業開始直前・授業中では対応できません。 4　この科目では、音楽を創ることを通して、創造性や発信力を高めていきます。専門的な知識や経験がなくても、自分自身の思いや意図、アイデアを活かしていこうとする姿勢が大切です。イメージを膨らませながら積極的に取り組んでください。

学習評価	評価の観点	評価の観点の趣旨
	Ⅰ　知識・技能	①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ②創意工夫を生かした音楽表現を表すために必要な技能を身に付け、創造的に作曲している。
	Ⅱ　思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように音楽で表現するかについて表現意図をもっている。
	Ⅲ　主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現の学習活動に取り組もうとしている。

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
	プロジェクト創作	奥尻創生アプリ学B	授業内で制作した音楽に、プログラミングソフトで作成したアニメーションなどをつけることで、生活や社会を豊かにする創作の力を身に付ける。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4	オリエンテーション	1	価値創造DTMの目標や内容を確認し、１年間の学習の見通しを持つとともに、音楽を創ることについて考えを持つ。	「価値を創造する」とは何か、音楽やその他の文化を交えてみんなで考えていきましょう！音楽を創るうえで大切な著作権についても考えていきます。	学びに向かう姿勢
	4	「きゅんメロ」の法則	9	J-POPの旋律構造の特徴を聴き取り、それらの持つリズムや用いられる音の組み合わせを活かして自分なりの旋律をつくって表現する。	J-POPにはリズムやコード進行など特有の特徴があります。日本人が好きすぎる「きゅんメロ進行」と呼ばれるコード進行に創作したメロディをつけ、オリジナルのJ-POPを完成させます。ボーカロイドに作った旋律を打ち込み、実際に歌唱させた作品をもとに評価します。	感受性
	5	セカイを彩れ！BGM	10	BGMの社会的意義や、場面に応じた効果的な音楽表現について考え、場面に沿った音楽を創作する。	普段生活する中で最も無意識的に聞いている音楽、「BGM」。それらがもたらす効果や社会的意義について考えながら、奥高祭の花火・ステージ発表の場面にふさわしい音楽を創作します。作った音楽は実際に奥高祭の中で使用します。たくさんの人に聞いてもらいましょう。	実践力
	6	コード進行の秘密	8	世界各国で用いられている「王道コード」について理解し、曲想に与える影響を考えながら作品を創作する。	POPS、ROCKなど大衆に受け入れられている音楽には、よく使われるコード進行があります。調べてお気に入りのものを見つけましょう。選んだコードにメロディをつけ、そのコードが持つ音楽的なよさを発表します。	情報収集力
	7/8	ペンタトニック・セッション	8	ペンタトニックスケールを使って、曲想やテーマに合わせた多様なジャンルの作品を即興的に創作し、他者とセッションする。	ピアノの黒鍵だけを使うペンタトニックスケールを使って、メロディを考えていきます。「魔法の伴奏」に合わせてピアノを用いた即興演奏にチャレンジしてみましょう！	ひらめき力
	9	プロジェクト創作①	18	自ら課題を設定し、整理・分析しながら、生活や社会に彩りを添える音楽を創作する。	これまでの学習で得た知識を活用しながら作品作りに取り組みます。適宜設ける中間発表での意見交換を生かして、より良い作品へと改善していきましょう。	デザイン力
後期	10/11	プロジェクト創作②	18			思考・判断・表現力
	12	プロジェクト創作③	15			完遂力
	1	最終発表会	3	完成した作品を発表し、音楽による価値創造について、自分自身の考えをまとめる。	これまでの成果を最終発表会で発表し、音や音楽と生活や社会との関わりについて学んだことをもとに振り返ります。最後には履修者全員の曲を1枚のCDにまとめたフルアルバムとして作品に残します。	発信力

科目名	英語コミュニケーションⅢ	３学年・必修	使用教科書	『COMET English Communication Ⅲ』（数研出版）
		単位数：３単位	使用副教材	『ワードナビ英単語・熟語 4500』（啓林館）『Listening Scope Standard』（いいずな書店）『COMET English Communication Ⅲ ベーシックノート』（数研出版）

学習目標	日常的・社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、 1　必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。 2　必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。 3　多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けて会話を発展させたり、課題の解決策なおを論理的詳しく話して伝え合ったりすることができる。 4　多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができる。 5　多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落からなる文章で論理的に詳しく書いて伝えることができる。
学習方法	●基本的にAll Englishで授業を行います。 ●英語は自分で考えながら話して、書いて、読んで、聞くことで、学ぶことができます。たくさん間違えて、たくさん学びましょう。 ●文法力は英語を使う上での基盤となります。スタディサプリ等で基本を学び、何回も「使う」過程で確実に身に付けましょう。 ●発表する際は、原稿を丸暗記するのではなく、話す内容を理解し、流れや要点を押さえて自分の言葉で発表できるよう意識しましょう。 ●スタディサプリを活用して、苦手問題を克服したり、検定対策をしたり、大学入試に備えましょう。

学習評価	評価の観点		評価の観点の趣旨
	Ⅰ	知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
	Ⅱ	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
	Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
	L1. Festivals of the World, L7. Virtual Water, L10 Chocolate and Child Labor	地理探究	英文で紹介されているそれぞれの国や地域の風土や文化、国が抱える問題点について、地理探究で学んだことと関連付けることで学びを深める。また、それぞれのテーマについて自分の考えや意見を英語を使って表現する。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushirlety 5.0
前期	4	L1. Festivals of the World	8	1. 自己の進路先を加味しながら、英語学習の目標を定める。 2. 世界の祭りについて、聞いたり読んだりした概要を理解し、世界の祭りや身近な祭りについて伝え合ったり、書いたりすることができる。	1. 自立的な学習ができるよう目標を決めよう。 2. 教科書の語彙や表現（特に分詞の後置修飾）を覚えながら、概要や要点を理解しておきましょう。また、世界の祭りについて発表できるための語彙や表現を整理しておきましょう。	グロースマインドセット
	5	L2. Biomemetics	10	1. 名詞節の使い方を理解し、活用できる。 2. 生体模倣について、聞いたり読んだりした概要を理解し、身近な生体模倣について伝えたり、書いたりすることができる。	教科書の語彙や表現（特に受け身）を覚えながら、概要や要点を理解しておきましょう。また、身近にある生体模倣について発表できるための語彙や表現を整理しておきましょう。	情報活用能力
	6	L3. The　Anchoring Effect	10	1. 比較・最上級を理解し、活用できる。 2. アンカリング効果について、聞いたり読んだりした概要を理解し、身近な購買行動について伝え合ったり、書くことができる。	教科書の語彙や表現（特に比較・最上級）を覚えながら、概要や要点を理解しておきましょう。また、アンカリング効果についてクラスメイトと意見交換できるための語彙や表現を整理しておきましょう。	デザイン力
	7	L4. Animal Welfare	8	1.現在完了を理解し、活用できる。 2. アニマルウェルフェアについて、聞いたり読んだりした概要を理解し、身近なアニマルウェルフェアについて伝え合ったり、書いたりすることができる。	教科書の語彙や表現（特に現在完了形）を覚えながら、概要や要点を理解しておきましょう。また、アニマルウェルフェアについてクラスメイトと意見交換できるための語彙や表現を整理しておきましょう。	感受性
	8	L5. Working Styles	8	1. 関係代名詞のwhatの使い方を理解し、活用できる。 2. 雇用について、聞いたり読んだりした概要を理解し、自身の職業選択について伝え合ったり、書いたりすることができる。	教科書の語彙や表現（特に関係代名詞のwhat）を覚えながら、概要や要点を理解しておきましょう。また、働き方について自分の進路と関連付けながら、クラスメイトと意見交換できるよう語彙や表現を整理しておきましょう。	情報収集力
	9	L6. Bobbi Gribb	10	1. 過去完了形の使い方を理解し、活用できる。 2. ある偉人について、聞いたり読んだりした概要を理解し、身近な偉人について伝えたり、書いたりすることができる。	教科書の語彙や表現（特に知覚動詞＋目的語＋動詞の原型/ ～ing）を覚えながら、概要や要点を理解しておきましょう。また、偉業を達成した人について紹介できるための語彙や表現を整理しておきましょう。	思考・判断・表現力
後期	10	L7. Virtual water L8. Dresden's decision	12	1. 関係代名詞・仮定法の使い方を理解し、活用できる。 2. 仮想水やドイツのある都市の決断について、聞いたり読んだりした概要を理解し、他教科で学んだことも活用しながら、それぞれの問題についてクラスメイトと意見交換をおこなったり、書いたりすることができる。	教科書の語彙や表現（特に関係代名詞、仮定法）を覚えながら、概要や要点を理解しておきましょう。また、仮想水やドイツのある都市の決断ついて、意見交換できるための語彙や表現を整理しておきましょう。	分析・判断力
	11	L9. Resilience	10	1. 使役動詞の使い方を理解し、活用できる。 2. レジリアンスについて、聞いたり読んだりした概要を理解し、身近なレジリアンスの事例について伝え合ったり、書くことができる。	教科書の語彙や表現（特に使役動詞＋目的語＋動詞の原型）を覚えながら、概要や要点を理解しておきましょう。また、レジリアンスについて表現できるための語彙や表現を整理しておきましょう。	コミュニケーション能力
	12	L10. Chocolate and Child Labor	10	1. 助動詞＋have＋過去分詞の使い方を理解し、活用できる。 2. 児童労働について、聞いたり読んだりした概要を理解し、労働について他教科で学んだことと関連付けながら、意見交換をしたり、書いたりすることができる。	教科書の語彙や表現（特に助動詞＋have＋過去分詞）を覚えながら、概要や要点を理解しておきましょう。また、児童労働について意見交換できるための語彙や表現を整理しておきましょう。	課題解決能力
	1	Essay writing	4	一定の題について、「つながり」と「まとまり」のある英文を書くことができる。抽象と具体、接続詞の使い方などを理解し、自身のライティング能力を向上させる。	パラグラフライティングをする機会を設けますので、論理の流れを言葉で表現できるように語彙や表現を整理しておきましょう。文法を理解して、表現につなげましょう。	言語力
通年帯活動	4～3	ワードナビ英単語・熟語 4500 Listening Scope Standard	各授業10分程度	音読や小テストを通じて、４技能の基礎となる語彙の習得を目指す。	【評価方法】 語彙力については年間計画表に記載されたスケジュールで行われる小テストに向けて満点をとろう。 【学習のポイント】 日常的に英語を使うことによって語彙を身につけていきましょう。使うことによって身につきます。また、授業中に行われるペアワークの時間を有効に活用しましょう。	完遂力
		ロールプレイ等	各授業5分程度	与えられた題について自分の意見を述べたり、役割に応じてロールプレイを行うことで、ディベートにつながる基礎力を養う。 絵を描写したり、説明をしたり、自分の意見を簡単な英語で述べることができる。	【評価方法】 毎回は記録に残す評価は行いません。 【学習のポイント】 発表の後は、振り返りの時間をとることがあります。言えたこと、言いたかったけど言えなかったことをメモし、調べることで少しずつ話せる英語が増えていきます。	実践力

科目名	論理・表現Ⅱ	３学年・選択	使用教科書	『MY WAY Logic and Expression Ⅱ』(三省堂)
		単位数：２単位	使用副教材	『マイウェイ総合英語』(三省堂)

学習目標	日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、 1　多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合ったりすることができる。 2　多様な語句や文を用いて、情報や考え、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができる。 3　多様な語句や文を用いて，情報や考え、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝えることができる。
学習方法	●基本的にAll Englishで授業を行います。 ●英語は自分で考えながら話して、書いて、読んで、聞くことで、学ぶことができます。たくさん間違えて、たくさん学びましょう。 ●実際に書くことや話すことを通して、英語の文構造や語彙、表現を身に付けます。 ●英語の論理構造を学び、豊かな表現を用いて自分の考えや意見を論理的に述べる力を身に付けます。

学習評価	評価の観点		評価の観点の趣旨
	Ⅰ	知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
	Ⅱ	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
	Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
	L5 Will Our lives Change with AI?	情報	現代の発達した科学技術を活用し我々の生活が変化していくことについて、情報科の視点からその理由や今後の展望を考え、英語で論理的に表現・発信できるようになる。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4	Lesson 1 I love My Country	6	1. 自己紹介し、質問できる。 2. 現在完了形・過去完了形・未来を表す表現を使って表現する。	1. 経験を語る表現、好きな場所を紹介する表現をまとめておきましょう。特に、他者の自己紹介を聞いて、よいところは積極的に真似しましょう。 2. エクササイズにも積極的に取り組み、正確性を向上させましょう。	グロースマインドセット
	5	Lesson 2 The New Wave of Sports	5	1. 週末の予定を語ることができる、最新のものを紹介することができる。 2. 助動詞の応用表現を使って表現する。	1. 週末の予定を語る表現、最新のものを紹介する表現をまとめておきましょう。 2. エクササイズにも積極的に取り組み、正確性を向上させましょう。	情報活用能力
	6	Lesson 3 The Future of Technology	5	1.印象深い授業について語ることができる。贈り物について説明する文書を書くことができる。 2. すぐに答えられないときのつなぎ言葉について学ぶ。聞き手の注意を引く方法を学ぶ。 3. 受動態・不定詞を使って表現する。	1. 印象深い授業について語る表現、贈り物について説明する表現をまとめておきましょう。 2. エクササイズにも積極的に取り組み、正確性を向上させましょう。	デザイン力
	7	Lesson 4 Rediscover Kabuki	5	1.日本の文化を語ることができる。 2.不定詞・知覚動詞・使役動詞を使って表現する。	1. 日本の文化を語る表現をまとめておきましょう。 2. エクササイズにも積極的に取り組み、正確性を向上させましょう。	感受性
	8	Lesson 5 Will Our lives Change with AI?	5	1.科学技術について語ることができる。社会の状況と職業について書くことができる。 2. 動名詞・分詞構文を使って表現する。	1. 科学技術について語る表現、社会の状況と職業について語る表現をまとめておきましょう。 2. エクササイズにも積極的に取り組み、正確性を向上させましょう。	情報収集力
	9	Lesson 6 Experience Madagascar's Wildlife	5	1. 相手にわかりやすいように大きななどを身近なものに例えることができる。世界や日本で有名な場所を紹介することができる。 2. 比較を使って表現する。	1. 相手にわかりやすいように大きななどを身近なものに例える表現・世界や日本で有名な場所を紹介する表現をまとめておきましょう。 2. エクササイズにも積極的に取り組み、正確性を向上させましょう。	思考・判断・表現力
後期	10	Lesson 7 Can We Go and Live on Mars?	5	1. 火星について会話ができる。火星での生活についてのレポートを書くことができる。 2. 関係代名詞を使って表現する。	1.火星について語る表現・生活についてのレポートを書く表現をまとめておきましょう。 2. エクササイズにも積極的に取り組み、正確性を向上させましょう。	自己管理能力
	11	Lesson 8 Language and Society	5	1. 旅行に行く友達と会話することができる。もし～がなければからはじまるスピーチをすることができる。 2. 仮定法を使って表現する。	1. 旅行に行く友達と会話する表現・もし～がなければと仮定の話をする表現をまとめておきましょう。 2. エクササイズにも積極的に取り組み、正確性を向上させましょう。	課題解決能力
	12	Lesson 9 Send Our Love to the World	5	1. 悩み事を伝える会話をすることができる。社会問題について発表原稿を書くことができる。 2. 否定・代名詞を使って表現する。	1. 悩み事を伝える表現・社会問題について発表原稿を書く表現をまとめておきましょう。 2. エクササイズにも積極的に取り組み、正確性を向上させましょう。	情報収集力
	1	Lesson 10 Follow in Our Hero's Footsteps	5	1. 調べ学習をして会話をすることができる。関心のある人物を紹介することができる。 2. 無生物主語構文・thatを使って表現する。	1.行った調べ学習の成果を発表できるように必要な表現・関心のある人物を紹介する表現をまとめておきましょう。 2. エクササイズにも積極的に取り組み、正確性を向上させましょう。	情報活用能力
	年内の適切な時期	ライティング演習	5	一定の題について、「つながり」と「まとまり」のある英文を書くことができる。抽象と具体、接続詞の使い方などを理解し、自身のライティング能力を向上させる。	パラグラフライティングをする機会を設けますので、論理の流れを言葉で表現できるように語彙や表現を整理しておきましょう。文法を理解して、表現につなげましょう。	実践力
		ディベート	4	ディベートの一定の型を経験します。コミュニケーション英語Ⅱで培った基礎力を活用して、論理性に注意しながら、発言してみよう。	ディベートをする機会を設けますので、論理性に注意しながら、自身の立場に基づいた意見を述べることができるようにしましょう。また、活動後の振り返りで、言いたかったけど言えなかった表現をまとめたり、意見文を書く機会を与えますので、辞書や教員に質問して解決するなど、次回できるようにするためにはどのようなことが必要かどうかを工夫してください。	グロースマインドセット

科目名	奥尻英語	３学年・選択	使用教科書	
		単位数：３単位	使用副教材	

学習目標	今後、奥尻町が活性化し、魅力ある自治体となるためには、海外への積極的な情報発信と、外国人観光客に対応できる人材の育成が必要となる。奥尻の海外への発信を軸としながら、英語によるプレゼンテーションやディスカッション等の言語活動を通して、探究の観点から聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの技能を統合的に育成する
学習方法	・実際に使うことを通して英語を身に付けます。 ・接客業や観光案内で必要な語彙や表現を、ロールプレイ等で学びます。 ・奥尻島の魅力を海外に発信したり、海外からの観光客に適切な情報を伝えることにもチャレンジします。 ・英語は自分で考えながら話して、書いて、読んで、聞くことで、学ぶことができます。たくさん間違えて、たくさん学びましょう。 ・発表する際は、原稿を丸暗記するのではなく、話す内容を理解し、流れや要点を押さえて自分の言葉で発表できるよう意識しましょう。

学習評価	評価の観点		評価の観点の趣旨
	Ⅰ	知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
	Ⅱ	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や奥尻島のことについて、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
	Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
	奥尻パブリシティ本部 町おこしワークショップ	総合的な探究の時間	パブリシティ本部で作成した動画やパンフレットの英語版の作成、町おこしワークショップの活動を海外に発信する。また、奥尻英語では、中学校などにおけるコミュニケーションを図る資質・能力を踏まえ、地域の課題等を題材として、３つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、「話すこと［やり取り］」、「話すこと［発表］」、「書くこと」を中心とした発信能力の育成を強化する指導を行う科目であるため。この科目で培った力は、町おこしワークショップでのプレゼンテーションで生かされるでしょう。

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4	Lesson1　英語×探究的な学び Lesson2　英語×奥尻の現状と課題	17	1．探究的な学びとはどのようなことなのかを理解することができる。 2．奥尻の現状を知り、海外からの観光客を取り込む上での課題について考える。	探究的な学びは課題の設定→情報の収集→整理分析→まとめ・表現でスパイラル上に発展します。課題の設定を行うためにまずは前提となる知識を身に付けましょう。	グロースマインドセット
	5					情報活用能力
	6	Lesson3 英語×観光	20	1．奥尻の観光資源について学びを深めるとともに、それを伝えるために必要な英単語や表現を学ぶ。また、それに必要な独自の単語帳、表現集を作成する。 2．外国人の観光に対する意識やニーズについて学ぶことで、異文化への理解を深める。	あらためて奥尻の観光資源や観光の在り方について学びを深めましょう。 実際に観光案内ができるよう、実践的な英語を身に付けましょう。 外国人の旅行への意識や旅先で求めるものについて調べ、日本人との違いや共通点について理解する。	情報収集力
	7					言語力
	8	Lesson4 英語×情報発信	30	1．奥尻のこれからの観光を見据え、外国人観光客にどんな情報を発信すべきか、また、安心して観光するためにはどんな手立てが必要なのかを調査・検討し、英語での掲示物やパンフレット等を作成する。 2．パブリシティ本部や町おこしワークショップでの成果物を英訳し発信する。 3．翻訳機能や文法チェック機能等の適切な利用方法や、利用上のモラルについて学習する。	情報の収集具合に応じて、課題の再設定を行うことも考えられます。課題は一度設定したからといって、もう変えられないわけではありません。絶えず修正することが可能です。 翻訳機能などを実際に使用することでその利点や問題点、使用にあたって注意しなければならないことを実践を通して学びます。	他者理解
	9					思考・判断・表現力
後期	10					デザイン力
	11	Lesson5 英語×奥尻の未来	18	これまでに学んできたことをもとに、20年後の奥尻について考え、この島の在り方や未来に期待することなど、自分の考えを英語でまとめ発表する。	自分にとって、相手にとっても、わかりやすい説明ができるように工夫をしましょう。 翻訳機能等を使う場合は「自分がわかる英語」を使用するようにしましょう。	課題解決能力
	12					プランニング能力
	1	Lesson7 振り返り	5	この１年の英語×探究的な学びを振り返りましょう。振り返ることで自身が成長を感じることもできますし、失敗したことも糧として次へつなげることができます。	振り返りは探究では必要なプロセスです。成功から学ぶことも大きいですが、失敗から学ぶこともそれに負けないくらい大きなものとなります。	進む力

科目名	奥尻創生アプリ学B	３学年・選択	使用教科書	
		単位数：２単位	使用副教材	

学習目標	奥尻町の社会的課題の克服に寄与することを目的とした基礎レベルのアプリ作成やプログラミング能力を養う。 1．アプリの作成に対して、計画を立て、データ構造や手順を決定し、作成・修正を繰り返すといったプログラミングの過程の基礎を学ぶ。 2．プログラミングを通して、論理的思考力や知識・情報を整理して分析する力を養う。
学習方法	□授業の持ち物 筆記用具、ファイル　※その他、必要なものがある場合は事前に連絡します。 □必要に応じて、予習・復習を行ってください。今のところ、基本的なアルゴリズム・HTML・CSS・JavaScript・Python・Scratchなどについて学習していく予定です。ただし、状況や実装したい機能に応じて変更になる可能性があります。その場合は、その都度授業内で連絡します。

学習評価	評価の観点		評価の観点の趣旨
	Ⅰ	知識・技能	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。
	Ⅱ	思考・判断・表現	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて思考を深め、適切に判断し、表現している。
	Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	情報や情報社会に関心をもち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技能を活用し、社会の情報科の進展に主体的に対応しようとする。

他教科との関連性	該当する単元（教材）	関連する教科・科目	教科横断的な視点や関連する学習活動の例（連携授業を行う場合はその内容）
	各種 プログラミング言語	全教科	プログラミングは、基本的に目的ではなく手段です。そのため、他の教科の目的に応じて、それを叶えるための手段として利用することが考えられます。 【例】 ・プログラミングを用いて、各個人に合った英単語学習サイトを作成する。（英語） ・プログラミングを用いて、大量のデータを集計、分析する（数学Ⅰ：データの分析） など

学期	月	単元名（教材）	配当時間	学習内容	評価方法と学習のポイント	Okushiriety 5.0
前期	4 5	オリエンテーション プログラミングの基礎 アルゴリズムの基礎	11	・オリエンテーション（実習で使用するエディタの再確認等） ・プログラミング言語の概要の再確認 ・簡単なアルゴリズムの再確認	・１年間の授業の流れを知る ・プログラミングの基礎を身に付ける ・アルゴリズムの基本的な知識を身に付ける	思考・判断・表現力
前期	6 ~ 9	プログラミング実践 （Scratch・HTML・CSS・JavaScript・Python等） 3Dモデリング実践	24	【学習内容】 ・アルゴリズムの基本 ・HTML、CSS（マークアップ言語）の実践 ・Scratch、JavaScript、Python（プログラミング言語）の実践 ・CADソフトを利用した3Dモデルの作成と3Dプリンタでの出力	【学習のポイント】 ・奥尻島の課題にアプローチする姿勢が授業中常に求められます。毎時間「奥尻島をより良くしていく」という視点をもって授業を受けてください。 ・まず、プログラミングに興味をもつことが非常に大切です。 ・無料で利用できるプログラミングのサイトなども多いので学校外の時間でも自分でプログラムを書いてみてください。 ・他人のものをコピーすることは一般的には良しとされませんが、プログラミングの場合には構いません。先人の知恵をありがたく利用しましょう。ただし、使用が許可されないことも当然あるため使用前に確認は必ずしましょう。 ・プログラムはこまめに上書き保存をし、実行しましょう。ため込むと突然データが失われたり、エラーの原因が特定しづらくなります。 ・エラーは英文で書かれており、非常に面倒ですが必ず読みましょう。なぜエラーなのか、原因がわかります。 ・プログラミングでは基本キーボードの全角入力は使用しません。常に半角での入力を心がけましょう。全角での入力はエラーの原因になる上に、後からのエラーの特定が非常に困難になります。 ・授業で扱えるプログラミング言語はほんの一部であり、世の中には無数のプログラミング言語があります。ぜひ、積極的に調べ、挑戦してみてください。	実践力
後期	10 ~ 1		25			